安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : アセタミプリド-d_6

SDS コード : Q8-13

供給者の会社名称 :

林純薬工業株式会社
住所 : 大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号 : 06-6910-7305
E-mail : shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL : https://direct.hpc-j.co.jp/

緊急連絡電話番号 : 06-6910-7305

推奨用途 : 試験研究用

使用上の制限 : 試験研究以外の用途には使用しない事。人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事。環境中に使用しない事。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	区分に該当しない
健康有害性	急性毒性（経口）	区分 3
	急性毒性（経皮）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分に該当しない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	区分に該当しない
	発がん性	区分に該当しない

	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1（神経系）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 2（肝臓）
	誤えん有害性	分類できない
環境有害性	水生環境有害性　短期（急性）	区分 1
	水生環境有害性　長期（慢性）	区分 1
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示
（GHS JP）

GHS06

GHS08

GHS09

注意喚起語（GHS JP）　：　危険

危険有害性（GHS JP）　：　飲み込むと有毒（H301）
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い（H361）
臓器の障害（神経系）（H370）
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（肝臓）（H373）
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性（H410）

注意書き（GHS JP）

安全対策　：　使用前に取扱説明書を入手すること。（P201）
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。（P202）
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。（P260）
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。（P264）
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。（P270）
環境への放出を避けること。（P273）
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。（P280）

応急措置　：　飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。（P301+P310）
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。（P308+P311）
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。（P314）
口をすすぐこと。（P330）
漏出物を回収すること。（P391）

保管　：　施錠して保管すること。（P405）

廃棄　：　内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。（P501）

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　：　化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
アセタミプリド-d6	≧95%	C10H5D6ClN4	(5)-6415	-	-

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。
上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合　：　空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

皮膚に付着した場合	:	汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。 多量の水と石鹸で優しく洗うこと。 直ちに医師に診断／手当てを受けること。
眼に入った場合	:	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に診断／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	:	口をすすぐこと。 直ちに医師に診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	水噴霧、耐アルコール泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂
使ってはならない消火剤	:	強い水流は使用しない。
爆発の危険	:	加熱により、容器が爆発するおそれがある。
火災時の危険有害性分解生成物	:	火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
消火方法	:	着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。 周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。 移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。 消火に使用した水が環境中に流出しないようにする。 消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
消火時の保護具	:	消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置	:	立ち入る前に、密閉された場所を換気する。 関係者以外の立入りを禁止する。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業行わない。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	:	環境への放出を避けること。 下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

浄化方法	:	粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移動する。 回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	:	吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。 漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。
安全取扱注意事項	:	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗いうがいをすること。 作業所の十分な換気を確保する。 接触、吸入又は飲み込まないこと。
接触回避	:	長時間または反復の暴露を避ける。

保管

安全な保管条件	:	施錠して保管すること。 直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。 アルゴン封入。
安全な容器包装材料	:	遮光した気密容器。
技術的対策	:	適用法令を遵守する。
保管温度	:	冷蔵保管:2～10℃

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	:	取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

皮膚及び身体の保護具	:	不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、不浸透性長靴
眼の保護具	:	保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
手の保護具	:	不浸透性保護手袋
呼吸用保護具	:	防塵マスク

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	:	固体
外観	:	固体
色	:	白色
臭い	:	データなし
pH	:	データなし
融点	:	データなし
凝固点	:	データなし
沸点	:	データなし
引火点	:	データなし
自然発火点	:	データなし
分解温度	:	データなし
可燃性	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
相対密度	:	データなし
密度	:	1.3 g/cm^3 (20℃)
相対ガス密度	:	データなし
溶解度	:	データなし
n-オクタノール/水分配係数(Log Pow)	:	データなし
爆発限界 (vol %)	:	データなし
動粘性率	:	データなし
粒子特性	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	:	データなし
化学的安定性	:	通常の取扱い条件では安定である。
危険有害反応可能性	:	データなし
避けるべき条件	:	日光、熱
混触危険物質	:	データなし
危険有害な分解生成物	:	窒素酸化物、塩素、塩素化合物

11. 有害性情報

アセタミプリド	
急性毒性（経口）	【分類根拠】(1)～(6)より、より有害性の高い区分を採用し、区分 3 とした。【根拠データ】(1)ラット(雄)の LD50:217 mg/kg(食安委 農薬評価書 (2014)、CLH Report (2018)) (2)ラット(雌)の LD50:146 mg/kg(食安委 農薬評価書 (2014)、CLH Report (2018)) (3)ラット(雄)の LD50:195 mg/kg(食安委 農薬評価書 (2014)、CLH Report (2018)) (4)ラット(雌)の LD50:140～200 mg/kg の間(食安委 農薬評価書 (2014)、CLH Report (2018)) (5)ラット(雄)の LD50:417 mg/kg(CLH Report (2018)) (6)ラット(雌)の LD50:314 mg/kg(CLH Report (2018))
急性毒性（経皮）	【分類根拠】(1)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ラットの LD50:> 2,000 mg/kg(食安委 農薬評価書 (2014)、JMPR (2011))
急性毒性（吸入:気体）	【分類根拠】GHS の定義における固体であり、区分に該当しない。
急性毒性（吸入:蒸気）	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
急性毒性（吸入:粉じん、ミスト）	【分類根拠】(1)、(2)からは区分を特定できず、データ不足のため分類できない。【根拠データ】(1)ラットの LC50(4 時間):> 0.3 mg/L(食安委 農薬評価書 (2014)) (2)ラットの LC50(4 時間):> 1.15 mg/L(食安委 農薬評価書 (2014))
急性毒性（吸入:ミスト）	データなし
皮膚腐食性／刺激性	【分類根拠】(1)、(2)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ウサギ(n=6)を用いた皮膚刺激性試験(GLP、4 時間適用、72 時間観察)において、全例で皮膚刺激性変化はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、JMPR (2011)、農薬抄録 (2015))。(2)ウサギ(n=9)を用いた皮膚刺激性試験(4 時間適用、3 日観察)において、全例で皮膚刺激性変化はみられなかったとの報告がある(農薬工業会:「農薬時代」第 173 号 (1993))。
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	【分類根拠】(1)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ウサギ(n=9)を用いた眼刺激性試験(GLP、72 時間観察)において、非洗眼群で 1～48 時間後に軽微な結膜発赤がみられたが、72 時間後には消失した(非洗眼群 6 例の角膜混濁スコアの平均:0、虹彩炎スコアの平均:0、結膜発赤スコアの平均:0.2、結膜浮腫スコアの平均:0)との報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、JMPR (2011)、農薬抄録 (2015))。
呼吸器感作性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	【分類根拠】(1)、(2)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)モルモット(n=20)を用いた Maximisation 試験(GLP、皮内投与:2.5%溶液)において、惹起 24、48 時間後の陽性率はともに 0%(0/20 例)であったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、JMPR (2011)、農薬抄録 (2015))。(2)モルモット(n=10)を用いた Maximisation 試験(GLP、皮内投与:1%溶液)において、惹起 24、48 時間後の陽性率はともに 0%(0/20 例)であったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、JMPR (2011)、農薬抄録 (2015))。
生殖細胞変異原性	【分類根拠】(1)～(8)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)マウスの骨髄細胞を用いた小核試験(GLP、単回経口投与)において、陰性の報告(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)、JMPR Tox Monograph (2011)、CLH Report (2018))。(2)ラットの骨髄細胞を用いた染色体異常試験(GLP、単回経口投与)において、陰性の報告(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)、JMPR Tox Monograph (2011)、CLH Report (2018))。(3)In vivo/in vitro 試験系としてラットの肝細胞を用いた不定期 DNA 合成試験(単回経口投与)において、陰性の報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、JMPR Tox Monograph (2011)、CLH Report (2018))。(4)細菌復帰突然変異試験(GLP)において、陰性との報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)、JMPR Tox Monograph (2011)、CLH Report (2018))。(5)ほ乳類培養細胞(CHO)を用いた遺伝子突然変異試験(GLP)において、陰性との報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)、JMPR Tox Monograph (2011)、CLH Report (2018))。(6)ほ乳類培養細胞(CHO 及び CHL)を用いた染色体異常試験(GLP)において、陽性との報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)、JMPR Tox Monograph (2011)、CLH Report (2018))。(7)ラットの培養初代肝細胞を用いた UDS 試験において、陰性との報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)、JMPR Tox Monograph (2011)、CLH Report (2018))。(8)EU の最新評価では、in vivo 及び in vitro 結果から、証拠の重み付けにより本物質は遺伝毒性を有しないと考えられている(CLH Report (2018)、ECHA RAC Opinion (2020))。
発がん性	【分類根拠】(1)～(3)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)国内外の分類機関による既存分類として、EPA では NL(Not Likely to be Carcinogenic to Humans)に分類さ

アセタミプリド	
	れている（EPA Chemicals Evaluated for Carcinogenic Potential Annual Cancer Report 2018: 2001 年分類）。（2）ラットの 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（混餌投与）では、雌の高用量群において乳腺腺がんの発生頻度増加がみられたが、試験施設の背景データの範囲内であり、Fischer の直接確率検定では投与群と対照群との間に差異がないことから検体投与による影響ではないと判断された（JMPR Tox Monograph (2011)）。その他、検体投与による腫瘍発生頻度の増加はなく、発がん性は認められなかった（食安委農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)、JMPR Tox. Monograph (2011)）。（3）マウスの 18 ヵ月間発がん性試験（混餌投与）では、発がん性は認められなかった（食安委 農薬評価書 (2014) 、農薬抄録 (2015)、JMPR Tox. Monograph (2011)）。
生殖毒性	【分類根拠】（1）～（6）より、区分 2 とした。【根拠データ】（1）ラットを用いた強制経口投与による発達神経毒性試験（GLP、妊娠 6 日～哺育 21 日）において、45 mg/kg/day で親動物に一般毒性影響（死亡（1 例）、体重増加抑制及び摂餌量減少等）、児動物に生後 0～1 日の生存率の低下、体重増加抑制（雌雄）及び聴覚驚愕反応の低下（雄）がみられたとの報告がある（食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)）。なお、EFSA の評価では、1 つ下の中用量投与の児動物の生後 20 日及び 60 日にも聴覚驚愕反応低下傾向がみられたとして保守的な NOAEL の設定が提案された（EFSA (2013)、CLH Report (2018)）。（2）ラットを用いた混餌投与による二世代生殖毒性試験（GLP）において、800 ppm で親動物に一般毒性影響（体重増加抑制、摂餌量減少、肝細胞肥大等）、児動物に体重増加抑制（F1 及び F2）、生存率低下（F2）がみられた。なお、繁殖能に対する影響は認められなかったとの報告がある（食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015) 、JMPR (2011)）。（3）（2）とは別のラットを用いた混餌投与による二世代生殖毒性試験（GLP）において、800 ppm で親動物に一般毒性影響（体重増加抑制、摂餌量減少）、F1 及び F2 児動物に体重増加抑制、生存率低下（哺育 14 及び 21 日）、F1 児動物に包皮分離遅延、膣開口遅延、F2 児動物に生存率低下（哺育 4 日）、離乳率低下、眼瞼開裂遅延、耳介開展の遅延傾向がみられた。なお、繁殖能に対する影響は認められなかったとの報告がある（食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015) ）。（4）ラットを用いた強制経口投与による発生毒性試験（GLP、妊娠 6～15 日）において、50 mg/kg/day で親動物に体重増加抑制、摂餌量減少、肝絶対及び比重量増加、腎比重量増加、児動物に第 13 肋骨短縮化の頻度増加がみられたが、催奇形性は認められなかったとの報告がある（食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)、JMPR (2011)）。（5）ウサギを用いた強制経口投与による発生毒性試験（GLP、妊娠 6～18 日）において、催奇形性は認められなかったとの報告がある（食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)、JMPR (2011)）。（6）CLH Report では、（3）の母体に影響のない用量での神経発達影響に加え、母体に影響のある用量での出生児の生存率低下、生後の発育遅延（雄児の包皮分離遅延等）により Repr. 2 を提案した（CLH Report (2018)）。RAC は神経発達毒性試験における中用量での聴覚驚愕反応低下は有意差がないとして否定したが、その他の発生影響は受容できるとして、Repr. 2 は妥当との判断を示した。また、（3）の児動物にみられた離乳前の生存児数減少については、授乳による影響が検討されたが、出生後 0 日後に体重が減少していたことから、少なくとも子宮内ばく露が影響していることを示唆し、授乳を介した影響についてはデータが不十分であることから分類しないと結論付けた（ECHA RAC Opinion (2020)）。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	【分類根拠】（1）～（6）より、区分 1（神経系）とした。【根拠データ】（1）自殺目的で本物質を含む殺虫剤を服用した急性中毒2症例では、重度の悪心・嘔吐、筋肉虚弱、低体温、痙攣が共通してみられたとの報告がある（HSDB (Accessed Oct. 2020)）。（2）ラットを用いた単回経口投与試験において、雌で 120 mg/kg 以上（区分 1 の範囲）、雄で 150 mg/kg（区分 1 の範囲）以上で死亡例がみられ、症状として体重減少、振戦、うずくまり、反応性低下、側臥位、雌に腹臥位、流涎、尿失禁、歩行失調、剖検例で肺の暗赤色化がみられたとの報告がある（食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)）。（3）ラットを用いた単回経口投与試験において、140 mg/kg 以上（区分 1 の範囲）で散瞳及び振戦が、200 mg/kg 以上（区分 1 の範囲）の雄及び 280 mg/kg 以上（区分 1 の範囲）の雌で間代性痙攣がみられたとの報告がある（食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)）（4）マウスを用いた単回経口投与試験において、150 mg/kg 以上（区分 1 の範囲）で死亡例がみられ、症状として振戦、うずくまり、剖検で少数の死亡動物に肺の暗赤色化がみられたとの報告がある（食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)）。（5）ラットを用いた単回吸入（粉塵）ばく露試験（GLP、4 時間）において、0.3 mg/L（区分 1 の範囲）で体重減少、脱毛、散瞳、振戦、間代性痙攣がみられたとの報告がある（食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015)）。（6）ラットを用いた単回経口急性神経毒性試験において、一般症状及び FOB 観察から、30 mg/kg 以上（区分 1 の範囲）で雄に自発運動量低下が、100 mg/kg（区分 1 の範囲）で顕著な振戦、瞳孔拡張及び低体温などがみ

アセタミプリド	
	られ、急性神経毒性が確認された。脳重量及び神経病理学的検査で検体投与の影響は認められなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2014))。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	【分類根拠】(1)、(2)より肝臓が標的臓器であり、(2)では肝細胞肥大だけでなく、肝細胞空胞変性が認められている。よって、区分 2(肝臓)とした。【根拠データ】(1)ラットを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験(GLP)において、800 ppm(50.8 mg/kg/day(雄)、56 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で肝臓影響(肝比重量増加、小葉中心性肝細胞肥大)がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015))。(2)ラットを用いた混餌投与による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験(GLP)において、400 ppm 以上(17.1 mg/kg/day(雄)、22.6 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で雄に肝細胞肥大が、1,000 ppm(46.4 mg/kg/day(雄)、60 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で雄に小葉中心性肝細胞空胞変性、雌に肝細胞肥大がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015))。【参考データ等】(3)マウスを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験(GLP)において、区分 2 までの用量範囲では有害影響はみられず、800 ppm 以上(106 mg/kg/day(雄)、129 mg/kg/day(雌)、区分該当しない範囲)で肝臓影響(比重量の増加、小葉中心性肝細胞肥大など)がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015))。(4)ラットを用いた混餌投与による 90 日間亜急性神経毒性試験(GLP 間)において、800 ppm(59.7 mg/kg/day(雄)、67.6 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で体重増加抑制、摂餌量減少がみられたのみで、神経毒性はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015))。(5)ウサギを用いた 21 日間亜急性経皮毒性試験(GLP、6～6.5 時間/日、5 日/週)において、1,000 mg/kg/day(90 日換算:233 mg/kg/day、区分該当しない範囲)で全身的な影響及び皮膚刺激性はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015))。(6)イヌを用いた混餌投与による 90 日間及び 1 年間慢性毒性試験(GLP)において、最高用量の 2,000 ppm(58 mg/kg/day(雄)、64 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)及び 1,500 ppm(55 mg/kg/day(雄)、61 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で体重増加抑制、摂餌量減少のみがみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015))。(7)マウスを用いた混餌投与による 18 ヵ月間経口投与試験(GLP)において、400 ppm(65.6 mg/kg/day(雄)、75.9 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で雌に肝比重量増加が、1,200 ppm(186 mg/kg/day(雄)、215 mg/kg/day(雌)、区分該当しない範囲)で肝細胞肥大、雄に肝比重量増加がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2014)、農薬抄録 (2015))。
誤えん有害性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

アセタミプリド	
水生環境有害性　短期(急性)	甲殻類(ミシッドシュリンプ)96 時間 LC50 = 0.066 mg/L(EU CLP CLH, 2018)であることから、区分 1 とした。
水生環境有害性　長期(慢性)	急速分解性がなく(難分解性、OECD TG301B 試験における 28 日間分解度:27%(EU CLP CLH, 2018))、甲殻類(ミシッドシュリンプ)の 28 日間 NOEC = 0.0025 mg/L(EPA OPP Pesticide Ecotoxicity Database, 2021)から、区分 1 とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)　:　都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。

汚染容器及び包装　:　容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

国連番号 (IMDG)	:	2811
正式品名 (IMDG)	:	TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S.
容器等級(IMDG)	:	III
輸送危険物分類 (IMDG)	:	6.1
危険物ラベル (IMDG)	:	6.1
クラス(IMDG)	:	6.1
区分(IMDG)	:	6.1
特別規定 (IMDG)	:	223、274
少量危険物(IMDG)	:	5 kg
微量危険物(IMDG)	:	E1
包装要件(IMDG)	:	P002
IBC 包装要件(IMDG)	:	IBC08
IBC 特別規定(IMDG)	:	B3
ポータブルタンク包装規定 (IMDG)	:	T1
輸送特別規定-タンク(IMDG)	:	TP33
積載区分 (IMDG)	:	A
特性および観察結果(IMDG)	:	Toxic if swallowed, by skin contact or by inhalation.
緊急時応急措置指針番号	:	154

航空輸送(IATA)

国連番号 (IATA)	:	2811
正式品名 (IATA)	:	Toxic solid, organic, n.o.s.
容器等級 (IATA)	:	III
輸送危険物分類 (IATA)	:	6.1
危険物ラベル (IATA)	:	6.1
クラス (IATA)	:	6.1
区分(IATA)	:	6.1
PCA 微量危険物(IATA)	:	E1
特別管制区(PCA)少量危険物(IATA)	:	Y645
特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA)	:	10kg
PCA 包装要件(IATA)	:	670
特別管制区(PCA)最大積載量(IATA)	:	100kg
CAO 包装要件(IATA)	:	677
貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA)	:	200kg
特別規定(IATA)	:	A3、A5
ERG コード (IATA)	:	6L
海洋汚染物質	:	該当

国内規制

海上規制情報	:	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	:	航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	:	154
特別な輸送上の注意	:	運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法	:	非該当
毒物及び劇物取締法	:	劇物（指定令第2条） トランスーNー（6ークロロー3ーピリジルメチル）ーN'ーシアノーNーメチルアセトアミジン及びこれを含有する製剤
水質汚濁防止法	:	有害物質（法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条）
消防法	:	非該当

外国為替及び外国貿易法	:	輸出貿易管理令別表第1の2項 輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	:	毒物類・毒物（危規則第2，3条危険物告示別表第1）
航空法	:	毒物類・毒物（施行規則第194条危険物告示別表第1）
港則法	:	その他の危険物・毒物類（毒物）（法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	:	特別管理産業廃棄物（法第2条第5項、施行令第2条の4）
下水道法	:	水質基準物質（法第12条の2第2項、施行令第9条の4）
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	:	第1種指定化学物質（法第2条第2項、施行令第1条別表第1） トランスーNー（6ークロローピリジルメチル）ーN'ーシアノーNーメチルアセトアミジン（別名アセタミプリド）（管理番号：617）(100%)
土壌汚染対策法	:	特定有害物質（法第2条第1項、施行令第1条）

16. その他の情報

参考文献	:	17524 の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 独立行政法人　製品評価技術基盤機構（NITE） ERG2020 版　緊急時応急措置指針(日本規格協会)
その他の情報	:	この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所･機関･国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。